

ストーリー中心型カリキュラム設計者と受講者の評価差異 —GBSチェックリストを用いた調査—

Difference of evaluation between designers and students of a Story-Centered Curriculum:
A survey using the GBS-checklist

柴田 喜幸^{*1*2}, 小山田 誠^{*1}, 根本 淳子^{*1}, 鈴木 克明^{*1}
Yoshiyuki SHIBATA^{*1*2}, Makoto OYAMADA^{*1}, Junko NEMOTO^{*1}, Katsuaki SUZUKI^{*1}

*1 熊本大学大学院

*1 Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University

*2 産業医科大学

*2 University of Occupational and Environmental Health

Email: yshibata@med.uoeh-u.ac.jp

あまし：熊本大学大学院教授システム学専攻では、2008年度博士前期課程1年生を対象にストーリー中心型カリキュラム（Story-Centered Curriculum, 以下SCC）を導入した。SCCはR. シャンクが自ら提唱したGBS理論の発展形である。本年3月、著者らは共同著者の先行研究にある「GBSチェックリスト」を用い、設計者視点でその評価を行った。今般、同チェックリストを用いた調査を受講学生を対象に行い、設計者の評価と学生の評価の差を調べた。その結果から今後のSCC、あるいはストーリー中心型の教材設計・運営の改善に資するべく考察を行った。

キーワード：GBS（Goal-Based Scenarios）、ストーリー中心型カリキュラム、eラーニング、受講者調査

1. はじめに

1.1 概要

社会人を対象とした熊本大学大学院教授システム学専攻（以下、本専攻）では2008年度博士前期課程1年生を対象にストーリー中心型カリキュラム（Story-Centered Curriculum, 以下SCC）を導入した。SCCはR. シャンクが自ら提唱したGBS理論の発展形である。本年3月、著者らは共同著者の先行研究にある「GBSチェックリスト」⁽¹⁾を用い、開発者の視点による自己評価を行った⁽²⁾。しかし、非構成的面談自由記述式のアンケートなどを通じ学生の意見を収集すると、設計者の評価とは必ずしも一致しないことがわかってきた。またそこでは学生の日常の業務内容により評価に差があることも示唆された。本研究では、9名の学生を対象に日常の勤務内容を「営利事業」「非営利事業」に大別した上で、当該リストによる評価を実施し、設計者のそれと比較した。またその結果から、よりGBSに適合したシナリオの作成に向けた考察を行った。

1.2 熊大SCCの設定

熊大SCCの履修学生は、実際の生業はさまざまであるが、一律に「MTM社」という教育ビジネスを業とする営利企業の社員としての役割を演ずることになった。表1にその設定内容を示す。

表1 カバーストーリー（抜粋）

<p>あなたは、Meet-The-Mind社（MTM）にeラーニングシステムの企画・設計者として入社しました。前社では、他社が開発した教材を使って研修していましたが、もっと効果的な教材に自分で携わりという思いから転職を決意しました。あなたの願いがかなって、入社と同時にコンテンツ開発事業部に配属されたところです。</p>
--

2. 調査方法

2.1 調査対象者

博士前期課程1年次を修了した専攻学生に対し調査協力者を電子メールで公募した。その際、協力の有無、回答内容如何により以後の成績になら影響を与えないことも言明した。結果、5名の非営利団体職員（大学教職員）と4名の営利団体職員（主に教育ビジネス）の計9名の応募を得た。

2.2 調査内容

設問はGBSチェックリストの2009年改訂版によるGBS7要素の下位項目計45問である。うち36問は肯定を3点、中間を2点、否定を1点として採点の上、評価の理由と改善案を求め、残る9問は採点を求めず自由記述のみとした。また、回答結果は非営利事業者、営利事業者、設計者別に集計し、その比較をした。

3. 調査結果

学生（非営利／営利事業者各々の平均）、設計者別のスコアを一覧にした。本稿では採点を行った計36問のうち、①設計者と学生の評価差および営利－非営利事業者間の評価差が0.7以上であるもの、②学生の現実の職業との関連に関する設問（表2中★印）を抜粋し表2に挙げた。

3.1 総合点

評価の総平均は設計者が2.8ポイント、学生は営利・非営利ともに2.5点でありその差は0.3点であった。カバーストーリーが営利事業者である設定であることについて、学生の現実の職業との関連に関する設問については、平均で非営利事業者が営利事業者を0.3ポイント下回った。

表 2 集計結果 (抜粋)

7 要素	設問	P	B	A	D	A-D	P-B
①カバーストーリー	カバーストーリーは、シナリオ内で学習者に習得させたいスキルを十分に練習できるように設定されていますか	2.4	2.3	2.3	3	-0.7	0.0
	学習者に身につけてほしいスキルが使われる場面とカバーストーリーとが無理なく繋がっていますか	2.1	2.3	2.2	3	-0.8	-0.1
	学習者にとってカバーストーリーは現実的ですか★	2.4	2.8	2.6	3	-0.4	-0.3
	カバーストーリーには学習者をやる気にさせる魅力を含んでいますか	2.7	2.3	2.6	3	-0.4	0.6
③使命	学習者にとって現実的な使命ですか★	2.4	3.0	2.6	3	-0.4	-0.7
	学習者の使命は、学習者が達成しようとしている目標そのものですか★	2.2	2.8	2.4	3	-0.6	-0.7
	学習者はいつその使命を達成できたかできたかははっきりと判断できますか	2.3	2.3	2.3	3	-0.7	0.1
	学習者は、その使命を達成すると、この学習で習得したスキルを現実で活用できることに気づきますか★	2.4	2.5	2.5	3	-0.5	0.0
④情報源	参考情報はよくまとまっていて、取得しやすいものですか	2.8	2.5	2.8	2	0.8	0.5
	参考情報は体験談の形で提供されているものが多いですか(例: 専門家の話として、学習者が必要な情報を提供する)	2.8	2.8	2.8	2	0.8	0.0
	参考情報がストーリーの形で提供されている場合、そのストーリーは学習者が知っている内容と関連付けて理解できるものでしたか★	2.8	2.8	2.8	2	0.8	0.0
⑤フィードバック	フィードバックは、学習者が選択や説明をしたらすぐに与えられていますか	2.0	1.5	1.9	3	-1.1	0.7
	複数のフィードバックの方法が用意してありますか(例: 専門家のコメント、コーチからのアドバイス、選択に応じて次のストーリー展開が変わることなど)	2.2	1.8	2.1	2	0.1	0.7
⑥学習目標	学習者には、学習目標を直接的に提示する代わりに、与えたストーリーや使命などから何を学ばせたいかが間接的に伝わるようになっていきますか	2.8	2.3	2.6	3	-0.4	0.7
	学ばせたいスキルが習得できるように、学習者に十分な練習をする機会を与えていますか	2.6	2.0	2.4	3	-0.2	0.7
⑦シナリオ操作	学習者自身で判断を下す場面が提供され、その判断ごとに違ったストーリーが展開されますか	1.0	1.8	1.3	1	-0.6	-0.8
	学習者が自分の考えで「説明」や「選択」などを行い、その結果を受けてシナリオが展開されることで、学習者自身がストーリーの中で与えられた使命を達成すること(目標達成)にどれくらい近づいているか分かるようになっていきますか	1.4	2.0	1.6	2	0.3	-0.7
	学習者が学習対象となるスキルを習得するために学習者が自分の考えで選択または説明したりする場面が十分に用意されていますか	3.0	2.3	2.7	3	-1.5	0.8
全体	(全設問の平均)	2.5	2.5	2.5	2.8	-0.3	-0.0

凡例: P = 非営利事業学生の平均 / B = 営利事業学生の平均 / A = 回答全学生の平均 / D = 開発者の回答

4. 考察

設計者と学生の評価差 0.3 ポイントについては、設計者および運営者の努力余地を明示するものであったと考える。一方で「シナリオ操作におけるストーリーの分岐」などは GBS が求める事項であるが、SCC ではあえてそれを行わず、教員らの個別フィードバックでその代替をすることを当初から企図していることから「低ポイント」であることは必ずしも悲観することには結びつかない。

今後の研究の中で、評価の理由などについての記述式の回答の吟味や追跡的な対面調査などを介して、設計者の評価と学生の評価の差異が生じた原因を明らかにしていきたい。

また、学生の生業によりポイントに差が出たこと

については、①専攻が目指している修了者コンピテンシーを鑑みるに、現在の職業の枠を超えて eラーニングの専門家になるという視点の訴求が不足していた、②たとえ経験のない事業という設定でもさらに没入感を持てる教材開発技術の向上が求められるという、という 2 つの課題が明確になった。

参考文献

- (1) 根本淳子, 鈴木克明: ゴールベースシナリオ (GBS) 理論の適応度チェックリストの開発. 日本教育工学会誌 28(3), pp.309-318 (2005)
- (2) 柴田喜幸, 小山田誠, 根本淳子, 鈴木克明: GBS チェックリストによる熊大 SCC の検証. 2009 年春 JSiSE 学生研究発表会 (佐賀会場), pp.194-197 (2009)